

今後取り組むテーマ①「もっと身近に運動を」について

評価指標		文化スポーツ課			経済観光課			社会福祉課			社会教育課			子育て支援課			国保健康課		
		評価資料		自己評価	評価資料		自己評価	評価資料		自己評価	評価資料		自己評価	評価資料		自己評価	評価資料		自己評価
ストラクチャ―	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用しているか	・市立小・中学校校長、県立高校校長、市スポーツ協会役員、市スポーツ推進委員協議会役員、県立スポーツセンター職員で組織するスポーツ推進審議会を開催し、市スポーツ推進計画に係る調査審議を行った。 ・神奈川県、国保健康課、社会福祉課、子育て支援課、民間企業等にスポーツの祭典における企画の協力を依頼し、様々な運動メニューを実施した。 ・スポーツを楽しむ逗子推進懇話会＊の開催には至っていない。 （＊イベントの希望を募る、振り返りを話す機会。スポーツ推進審議会を実施。）	3	75	逗子市観光協会が実施するマリンスポーツ体験会等に協力している。	3	75	介護予防事業に取り組む中で、3地域包括支援センター、社会福祉協議会（サロンへの専門職派遣）などで連携している。	3	75	社会教育について市民へ学習機会を提供するため、「現代的課題」「地域課題」「子どもを育てる環境づくり」に関する組織・団体と連携して講座などを実施。	4	100	子育て支援センターで赤ちゃんの日に合わせて「あそび塾」を開催。 頻度少なく、子育て支援センターのみでの開催なので市内全域で来ていないことが課題。	3	75	・県のアプリを活用し、歩数増加、健康習慣の意識づけを目的とした事業を展開。未病の普及啓発・推進事業の補助金を活用し、事業参加者（抽選）にインセンティブを準備。 ・ラジオ体操推進のため、逗子スポーツ協会から講師派遣を依頼。 民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の協力を得て、ラジオ体操等実施場所調査を実施。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の講座には、神奈川県の理学療法士会、作業療法士会、歯科衛生士会、管理栄養士会から講師派遣の協力を得た。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	・スポーツの祭典で他課の取り組みを体験するブースを構えている他、特定保健指導を受けた方へインセンティブとして姿勢カルテの取り組みチケットを提供している。 ・スポーツ協会において、市立体育館の指定管理業務のなかで、子育てや福祉に係る市の事業への協力を行っている。	4	100	・マリンスポーツのイベントなどにおいて、文化スポーツ課からの依頼に基づき、関係者駐車場用地や海岸公衆トイレの電源等を貸与している。 ・観光協会が実施するイベントについて、学校へのチラシ配付の協力を得ている。	3	75	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（高齢介護課、国保健康課と連携）や、eスポーツの推進（文化スポーツ課と連携）などで庁内連携している。	4	100	市民へ健康啓発の具体的取り組みとして国保健康課を紹介し、未病センター利用へつなげた。	4	100	・「子どものゲーム・スマホとのつきあい方講座」を開催。学校教育課と協力し、中学生保護者向けインスタグラムへ情報発信。社会福祉課等でチラシ配布。他部署からの紹介による参加があった。	3	75	・健康ポイント事業については市内のスーパー、逗子市元気UP応援店、市内関係施設、庁内関係課に事業チラシの掲示または配架を依頼。 ・ラジオ体操講座は、文化スポーツ課の協力を得て、スポーツ推進委員の派遣を依頼。	4	100
	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	・スポーツ推進審議会、総合計画審議会での意見聴取や、スポーツの祭典でのアンケート結果などから現状分析し、取り組みの参考にしている。	4	100	観光協会が実施するイベントにおいては、参加者にアンケートを実施して満足度等を確認している。	4	100	・介護予防事業を展開する上で、要介護状況のデータを活用しているが、事業自体の分析まではできていない。 ・リピーターが多いが、毎回定員に近い若しくは定員を超える申込がある。	3	75	社会教育委員会議（年4回）を開催して現状を伝え、委員から助言を得ている。また、講座毎にアンケートを取り、ニーズや改善点など分析している。	4	100	健診等でスマートフォンの動画を子に見せている保護者の姿が散見されたため、試験的に2回実施。根拠データが少なく、子どもの健康度を評価しないまま、事業実施をしている。	2	50	・講座参加者にはアンケートを実施し、ニーズ、理解度の確認、継続性について把握。 ・アンケートでの日常生活での運動場所や運動機会の有無は未把握。	3	75
プロセス	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	・スポーツイベントについて、様々な広報ツールを活用したほか、スポーツ推進審議会での意見からSNSによる情報発信を強化した。 ・スポーツ推進委員の研修会で習得した、ニュースポーツのルールや技術ふまえ、市民等がニュースポーツを体験できるニュースポーツ体験会を実施。	4	100	逗子市観光協会が実施するマリンスポーツ体験会等に協力している。	3	75	介護予防教室を高齢者センターやアリーナなどで実施したり、教室参加者へ社会福祉協議会からサロン開設などについて案内し、事業後も運動が継続されるように工夫している。	4	100	社会教育委員会議での意見や講座のアンケート結果を元に、次年度の講座内容を調整している。	4	100	0歳児対象、発達に合わせた遊びの提案。 からだを使った遊びの提案。 おもちゃを使いながら、保育士や保健師で実施する様子を見てもらうなど工夫。	4	100	・ラジオ体操講座では、参加者アンケートをもとに、講座の内容を追加し実施。また、ラジオ体操に加え、下肢筋力の維持のための簡単な体操などの情報提供・実践を行った。 ・ラジオ体操等実施場所のアンケートを実施し、身近な場所での運動機会の情報提供を行った。	4	100

アウト プ ット	テーマにお ける 情報発信 ⇒情報発信 しているか	HPやSNS（Instagram）での情報 発信の他、スポーツイベントのチ ラシを学校、逗子市内の駅、コ ミュニティセンターなどへ配布し た。また、初めての試みとして、 ポスターを作成。来年度は部数を 増やす予定。子どもや高齢者向け にはまだ展開の余地があると感じ る。	3	75	観光協会が行うSNS発信等以外 に、市広報誌や広報掲示板での情 報発信に協力している。	4	100	情報発信の手段：広報、広報板、 ホームページ、チラシ配布、その 他講座にて配布、関係機関窓口に て自由配架。 介護予防教室はリピーターが多い。 依然として運動する機会がない 前期高齢者が多い現状があり、 新規開拓が課題。	3	75	講座のテーマによって配架場所や 媒体（広報誌、HP、SNS、チラシ など）を変更・追加している。	4	100	広報、チラシ、子育てポータルサ イト、乳幼児健診で情報発信して いる。	3	75	情報発信の手段として、広報、広 報板、ホームページ、チラシ配 布、逗子市公式LINE、逗子市公式 Instagramでの配信を行った。その 他、庁内他課での事業でチラシ配 架依頼。	4	100
	実施回数・ 参加人数・ 増減率など ⇒目標達成に 向けてどうか	・ 6 / 1 スポーツの祭典の来場者数 R6：2,574人 R7：3,586人（+1012人） 小学校の運動会の予備日と日程が 重なり、来場者数の減少を心配し ていたが、みんなのダンス発表会 の観覧者がスポーツの祭典に参加 してくださったこともあり来場者 数が増加した。来年度は、小学校 の運動会の日程を踏まえ、開催日 を検討することで、より来場者数 の増加を見込めると考える。 ・ 1/18 ニューススポーツ体験会48 人 ・ 3/15 ポッチャ大会（小学生 の参加者が多い）40人	4	100	・ マリンスポーツを楽しもう： R7/7/22 64人 ・ 春休み海祭り：R8/3/26 天候 不良により中止 定員を超える応募があり、落選と なる人もいたが、運営上、これ以 上受け入れ人数を増やすことが困 難。	4	100	①介護予防教室：シニアヘルス アップ41回548人、脳活・筋活教 室44回478人、水中運動教室12回 155人、②フレイルチェック測定 会：12回145人(新規参加者15%)③ まちの座談会 3 回31人	3	75	講座の応募について、定員から概 ね75～95%の応募がある。	3	75	・ あそび塾：6/9, 12/8。合計52 人（親子25組、大人25人、子ども 27人） 今年度から開始した事業のため、 今後は年齢別や開催回数を増やす などが課題。 ・ 「①子どものつきあい方講座/② こどものゲーム・スマホとのつき あい方講座/」：①5/24, 8/23 12人 /②7/12、11/1 18人。募 集人数が30人/回のため、参加人数 を増やすことが課題。①と②をど ちらも受講する方もいる。	3	75	①ラジオ体操講座：4 回 64名 （R6：65名） ②シニア健康セミナー（高齢者の 保健事業と介護予防の一体的）：2 回 58名（R6：83名） ③アプリで健康ゲットキャンペー ン：参加者244人（R6：297名）	3	75
アウト カム	市民の反応 ・ 理解度 ⇒取組みの意 図 が伝わったか	スポーツの祭典の参加者アンケー トの結果では、「スポーツの祭典 がスポーツを始める（再開する） きっかけになるとおもいました か。」の問いでは、「思う」と回 答した人が全体の68.7%と前年と 比べて2.9%増えており、スポーツ するきっかけづくりの役割を十分 に果たすことができた。	4	100	アンケートは満足度高い。小学生 対象でリピーターも多いが、小学 校卒業で新規参加者もいる。	4	100	参加者からは「取組みが充実して いて良い」「仲間ができて楽し かった」と評価されている。 介護予防、社会参加促進を目的に 実施したまちの座談会では、外出 時に休めるベンチが欲しいなど要 望も出た。	4	100	講座アンケート結果で、「よく理 解できた・理解できた」と回答し た割合が、概ね90%以上いる。	4	100	アンケート実施。「遊び方、体の 使い方理解できた」との声多く、 満足度高い。	4	100	①ラジオ体操講座 「理解・まあ理解できた」 64/64 人（100%） ②シニア健康セミナー 「フレイルとは何か分かった」 52/57人（91.22%） ③アプリで健康ゲットキャンペー ン：「日頃の運動などの健康を意 識する機会になった（とてもそう 思う・そう思う）」 56/62人 （90.32%）	3	75
	市民の実践 可能性・ 波及効果 ⇒取組みの効 果があったか	スポーツイベント参加者へ総合型 地域スポーツクラブ「うみかぜク ラブ」を紹介し、継続的な運動習 慣へとつなげている。	4	100	地元の子どもを中心に海に慣れ親 しんでもらう機会となっており、 運営人数や開催場所の環境などで 規模拡大、回数の増加は難しい。	4	100	参加者へ活動を継続させる仕組み を作り、高齢者サロンへの参加や 立ち上げ、フレイルサポーターを 担うなど、活動・運動の継続につ ながっている。	4	100	講座アンケート結果で、「具体的 に活かせる・多少は活かそう だ」と回答した割合が、概ね90% 以上いる。	4	100	「もう少し大きい子どもを対象と したのもやってほしい」との意 見あり。次回開催に向けて検討 中。	3	75	①ラジオ体操講座：「今後やって いけそう」 63/64人（98.43%） ②シニア健康セミナー：「フレイ ル予防」について意識するようにな った 41/57人（71.9%） ③アプリで健康ゲットキャンペー ン：「実際の運動習慣などの健康 行動が良い方向に変化したか（と てもそう思う・そう思う）」 56/62 人（90.32%）	3	75
平均点 93.8			平均点 90.6			平均点 87.5			平均点 96.9			平均点 68.8			平均点 87.5				

今後取り組むテーマ②「自分の体を知ろう」について

評価指標		文化スポーツ課			社会福祉課			学校教育課			子育て支援課			国保健康課		
		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価	
			評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒ 連携・活用しているか	・逗子アリーナに「未病センターずしアリーナ」を開設していることから、関係機関と連携し、「ME-BYOスタイルアンバサダー」に登録している医師をイベント時に招き、講座等を行った。 ・健康に関する相談先を「未病センターずしアリーナ」（1階トレーニングルーム）に設置し、市民の方が相談しやすい環境を提供した。	3	75	高齢者サロンでのフレイル予防の講話を行い参加者の増加や周知につながったと思われる。今後は地域包括との連携も検討したい。	3	75	毎年4～6月に小中学校で学校医や歯科医師等による健診を実施している。一部の小学校では、身長・体重の測定を年2回行う。 また、10～12月頃には年長児を対象に就学時健診を行う。	4	100	市内外の医療機関や県（健康増進部門や保健所など）、民生委員や食生活改善推進団体などと連携している。	3	75	・特定健診受未受診者に対して、案内通知送付のうえ、国保連合会と連携し受診勧奨を行った。 ・県作成の媒体の活用、民間主催のイベントへの出張（未病フェス、ピンクリボン祭り）、他課イベントへの出張し、受診の意義について情報提供した。 ・商工会健診に赴き、健診結果への関心を高め、相談窓口の紹介を行った。 ・重症化予防や一体的実施事業についての取り組みを医師会に説明し、かかりつけ医との連携を図っている。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒ 庁内連携など工夫できたか	・国保健康課より特定検診等受診後の方々へ、逗子アリーナトレーニングルームでの「健康・体力相談」を紹介して頂いている。運動に慣れ親しんでいない方へ、国保健康課と連携を取りながら、何をどのくらい運動したらよいか、運動することのアプローチ、健診後のフォロー等の情報提供を行っている。	4	100	国保健康課の介護と医療の一体的実施事業において、相互に事業の案内を行った。	3	75	逗葉地域医療センターや歯科医師会を介して各小中学校の健診日程を調整している。 各校に養護教諭が1名在籍し、児童生徒の健康状態をフォローしている。	4	100	保護者や子のニーズに応じて庁内他課の取り組みを紹介し、連携する体制がある。親子で健康増進を推進するため、乳幼児健診で保護者向けの事業案内をしている。	3	75	・特定保健指導の初回分割実施を行い、健診結果通知後の保健指導につなげた。 ・未病センターの紹介を行い、体重管理や健康に関する情報提供を行った。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施では、低栄養をハイリスク要件とし、介入を行った。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒ 現状を客観的に見ているか	・市役所未病センターにもある体成分分析装置InBodyを「未病センターずしアリーナ」にも設置し、運動前の体重だけではなく、体水分量、タンパク質量等、部位別の筋肉量を測定し、利用者自身の基礎データを提供している。	4	100	ニーズ調査の結果、運動する機会がない前期高齢者が多いことから、その対象者へフレイル測定会の案内通知を行い、新規参加者15％が増え、前期高齢者の割合は同じだった（6％）。	3	75	児童生徒の健診結果は校務システムに記録し一元的に管理している。	3	75	子ども子育て支援事業計画を策定し、現状分析している。また乳幼児健診・教室でのアンケート、個別訪問などから情報収集し分析しているが、主観的情報が多く、地区診断には至らない。	3	75	・特定健康診査未受診者への電話かけにて、未受診理由の聞き取りを実施。 ・特定健診受診率、がん検診受診率、未病センターや講座にてアンケートを実施。現状把握している。 ・後期高齢者質問票のデータを活用し健康課題を分析。	4	100
	目標への手段 ⇒ 取組みを工夫しているか	・AIによる姿勢分析システム「姿勢カルテ」を提供している。現在の体の歪みを可視化し、筋肉の固くなりやすい箇所、脂肪の付きやすい箇所を見つけることができる。 ・「未病センターずしアリーナ」では「健康・体力相談」とは別に「姿勢カルテ相談」を実施している（2024年10月から）。	4	100	①ちらしの改定②測定会場を市内公共施設のあらゆる会場で行っていたものを市役所中心とした。③自治会、老人会等への出張測定の実施	4	100	健診の項目は、学校保健安全法施行規則第六条で定められた「児童生徒の定期健康診断の検査項目」について実施している。	4	100	妊娠期から子どもの発育・発達まで、庁内で保健師や助産師、栄養士に相談ができる体制を整えており、健診や訪問時などに周知している。育休取得率の向上により男性の育児参加が増加している。	3	75	・未受診者へ受診勧奨の通知を郵送。がん検診後の精密検査未受診者への受診勧奨、追跡調査実施。 ・健診結果（体重等）を可視化できる資料を作成し、高齢期の低体重ハイリスク者へ郵送。 ・受診結果について気軽に相談できる場所として、未病センターでの相談につなげた。 ・「健康栄養相談イベントDay」では健康に関する測定（シセイカルテ、健骨度、ストレスチェック、生活習慣・AGEs、ベジチェック）を実施。	4	100

アウト プ ット	テーマにお ける 情報発信 ⇒ 情報発信 しているか	情報発信の手段： 広報、ZASAスポーツニュース、広 報板、ホームページ、館内チラシ配布	3	75	広報ずし、広報掲示板、ちらしの配 架、ホームページ	3	75	小学校では健診結果は健康手帳に記録 し保護者と共有している。中学校では 再検査等が必要な場合に保護者へ通知 している。4月の保健だよりでは健診 の実施や方法等について家庭へ周知し ている。	3	75	出産前～子育て期に関する育児情報な どを動画（Youtube）で公開、イベン トなどをメルマガ配信している。また 乳幼児健診対象者の保護者に個別で ショートメッセージを送り、受診案内 勧奨している。湘南ビーチFMへ出演し 子育て情報を発信している。子育てガ イド・子育て情報誌を作成・配布。	4	100	情報発信の手段として、広報、広報板,ホーム ページ、逗子市公式LINE、逗子市公式 Instagram,その他：けんしんNAVIの全戸配布、 受診対象者への郵便通知、未受診者への受診勧奨 （電話、ハガキ）、がん検診受診勧奨ポスターを 医師会へ依頼。	4	100
	実施回数・ 参加人数・ 増減率など ⇒ 目標達成に 向けてどうか	・トレーニングルーム1日の利用人数の 平均：100.3人（前年72.9人） ・健康体力相談利用人数：90人（前年 度109人） ・姿勢カルテ相談利用人数：131人 （前年度54人、2024年10月から実施）	4	100	①フレイルチェック測定会：88人（＋ 30人）、新規参加者16％増②フレイル 予防出前講座：7回174人（前年比 増）R7.12月末時点③サポーター養成数 9人（－4人）	4	100	市立小中学校児童生徒3,560人（令和7 年5月1日時点）	4	100	・乳幼児健診受診率は95-98%で経過し ているが、乳幼児期の母子の現状把握 に努めるため、100%を目標とする。	3	75	・特定健診受診率（R6）37.6%、（R5）37.1％ ・特定保健指導終了率（R6）32.8%、（R5） 28.0% ・高齢者健診受診率：（R6）24.6%、（R5） 25.1% ・健康栄養イベントDay：5回 139人（R6 計9 回/248人） ・未病センター利用者数：R7年度：38,913人、 R6 ：35,212人 ・がん健診受診者数＊1 ①胃 R6：615人、R5:692人 ②大腸 R6：3193人、R5:3235人 ③肺 R6：2797人、R5：2722人 ④子宮頸 R6：1971人、R5：1900人 ⑤乳 R6：801人、R5：903人	3	75
アウト カ ム	市民の反応 ・理解度 ⇒ 取組みの意 図 が伝わったか	・「健康・体力相談」「姿勢カルテ相 談」を受けた方が継続してトレーニン グを行い、またご家族（ご主人・お子 さん等）やお友達を誘って同様の相談 を受けるなど、継続率が高い。	4	100	楽しかった、参加してよかったという 声があり、定期的に参加する参加者も 多い。リピーター率43％。	4	100	毎年4月の保健だよりにて、健診の実 施や方法等について家庭へ周知してい る。	4	100	妊娠期から子の成長に応じて健康につ いて一貫して伝え、多様な専門職が連 携して相談体制を整備していることを 概ね理解されている。産後うつなどの メンタルヘルスを含めた支援の強化が 必要。	3	75	・特定保健指導対象者減少率：R6 21.3%（R5 23.5％） ・健康栄養イベントDay参加者「理解・まあ理解 できた」127/137人（92.0%） ・一体的実施事業のハイリスクアプローチ後の改 善率（R6）：低栄養（体重の維持改善）19/25人 （76%）、重症化予防（糖尿病性腎症）（値の改 善）4/7人（57.1%）	3	75
	市民の実践 可能性・ 波及効果 ⇒ 取組みの効 果があったか	・「健康・体力相談」、「姿勢カルテ 相談」の際や、トレーニングルームの 訪れた際に、利用者から運動を継続す ることで、よく眠れるようになった、 筋肉量が増えた、健康診断の結果が良 くなった等のお声をいただいている。	4	100	継続的に参加している参加者は測定結 果の悪化の可能性は低い。また、友人 や家族を連れての参加や参加者からサ ポーターになるなどの効果もあった。	4	100	健診の結果により、再検査等が必要な 場合は各家庭に個別通知し、受診勧奨 を行う。受診した結果は学校へ提出す るよう求めている。	4	100	・経過健診受診率 75％ （未受診者には架電し状況確認実施） ・精密検査受診率 100％ 健診受診後の疾病の早期発見、治療に つながった。	4	100	・健康栄養相談イベントDayでの測定機会の提供 は、定員超。 ・未病センター利用者数は維持できている。 ・特定健康診査受診率R6目標33％は上回ってい る。 ・高齢者健診受診率24.6%（R5 23.48%）。県 17.2%、国23.1%よりも高い。	3	75

平均点 93.8

平均点 89.3

平均点 93.8

平均点 75.0

平均点 90.6

※1：国へ統計報告する5がん検診（胃、大腸、肺、子宮頸、乳）

今後取り組むテーマ③「望ましい食生活を実践しよう」について（1）

評価指標		市民協働課			経済観光課			高齢介護課			社会教育課		
		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価	
			評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用しているか	・食品ロス削減やエシカル消費（倫理的消費）などの推進で、国や県、消費生活センターなどと連携している。 ・年に4回フェアトレードの連続講座を行っている。	4	100	小坪漁協と小学校をつないだ授業の実施や、地元の産業を市民に知ってもらう活動などを通して、関係組織・団体と連携している。	4	100	要介護高齢者の生活支援や配食サービスについて、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などと連携。民間委託業者なども積極的に活用している。	4	100	・社会教育講座「夏休み親子料理教室」を小学生と保護者を対象に逗子市食生活改善推進団体若宮会、逗子市漁業協同組合に講師を委託して実施した。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	取り組みの周知などについて、健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携・協力できる体制がある。特に食品ロス削減のリーフレットが届いた際には、本担当者会議のメンバーに依頼して配布してもらっている。	4	100	漁業体験を授業に取り入れるべく学校教育課と調整している他、国保健康課キャンペーンへ賞品提供するなど、連携を進めている。	4	100	配食サービス利用に至らなかった人について、関係所管と情報共有を図り、配食のみならず必要な支援を協議した。	3	75	・講座で使用する調理器具を国保健康課を通じて、保健センターを紹介してもらい準備することたできた。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	・消費生活に係る相談内容・件数についてとりまとめ、国へ報告・共有。情勢を把握している。 ・R6逗子のまちづくりに関するアンケート調査において、「あなたは、フェアトレード商品を購入したことがありますか」という質問に対して47.5％の人が「市内・市外で購入したことがある」と回答している。	4	100	小坪漁港活性化のロードマップを策定して現状分析している他、授業や一般向け漁業体験、漁師タクシーでの感想などから実施内容を振り返っている。	4	100	高齢者福祉計画を策定して現状分析している他、独居高齢者への訪問事業などからニーズを把握している。	4	100	・社会教育委員会議（年4回）を開催して現状を伝え、委員から助言を得ている。また、講座毎にアンケートを取り、ニーズや改善点など分析している。	4	100
	目標への手段 ⇒取組みを工夫しているか	・本担当者会議を通じて、取り組みの周知先や資材の配布先が広がった。 ・令和7年度はフェアトレードタウン連続講座を4回開催している。	4	100	漁業体験及び漁師タクシーの感想やアンケート結果に基づき、次回の内容や方法、料金設定などを検討している。	4	100	独居高齢者への訪問事業などからニーズを把握している。 地域包括支援センターやケアマネジャー等とも連携をとり望ましい食生活に関する情報発信を行っている。	3	75	・社会教育委員会議での意見や講座のアンケート結果を元に、次年度の講座内容を調整している。	4	100
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信しているか	・国や県から食品の適切な消費の啓発や健康食品購買にかかる注意喚起などについて発信しているが、情報が届きにくい人へ届けることが課題。 ・食品ロス削減月間、フェアトレードに関連する取り組みを実施するにあたり、広報、広報板、ホームページ、チラシ配布を活用。	3	75	日々の食卓に関わる漁業を知ってもらうために、授業に漁業体験を取り入れた他、市内外向けにも体験を行い、食卓への取り入れ方などを情報発信している。	4	100	独居高齢者やサービス利用者に対して、国保健康課の管理栄養士と連携し、望ましい食生活に関する情報発信を行っている。	4	100	・講座のテーマによって配架場所や媒体（広報誌、HP、SNS、チラシなど）を変更・追加している。	4	100
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	・本担当者会議を通じて、取り組みの周知先や資材の配布先が広がった。 ・令和7年度はフェアトレードマルシェや、フェアトレード×ローカルランチキャンペーンを開催している。	4	100	①中学生向け給食日より：6/6　うみかぜテラスwith船上市場の告知　市立中学校生徒約1,000人 ②小坪魚々祭り：5/3～5/5 1500人・9/13～9/15 1500人 ③アオリイカの産卵場所の危機（磯焼けの影響）概要を伝えた小坪小児童が総合学習：4/25　約70人・11/19 約70人 ④海まる（マルシェ）、漁師タクシー（漁師から海の状況を聞きながら船に乗る）：4/26、6/8、6/28、9/27、11/29、12/20　107人	4	100	・配食サービスの利用者数や一人当たりの配食数は減少傾向。自ら食事準備困難な人が対象のため、対象となる人数が減少している可能性がある。 ・高齢者配食サービス：延べ103人 2,072食（12～15人/月4月～11月）	3	75	・講座の応募について、定員の100％の応募がある。	4	100
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	市民からの反応は見えにくいが、周知活動は引き続き広がっていく。	3	75	漁業活動の理解が進み、体験した児童らから「もっと知らせたい」としてアオリイカの生態や海の状況を資料にまとめるなど、輪が広がっている。	4	100	配食サービスは安否確認などの目的もあるため、サービスそのものや望ましい食生活の周知について、関係職員からの情報提供に留まっている。	3	75	講座アンケート結果で、「よく理解できた・理解できた」と回答した割合が、概ね90％以上いる。	4	100
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があったか	本担当者会議を通じて、庁内で問題を共有できる場ができた。今後、消費生活トラブル予防の観点から、連携の輪を広げていきたい。	4	100	上記のような波及効果が出ている他、家庭で話題にってもらうことで、親や他世代にも認識が広がり、「海業」への関心が広がっている。	4	100	公的サービスに依らない、配食・食材配達等、民間サービスも増加してきており、今年度において特段の効果は確認出来ない。	2	50	講座アンケート結果で、「具体的に活かせる・多少は活かせそうだ」と回答した割合が、概ね90％以上いる。	4	100

平均点 93.8

平均点 100

平均点 81.3

平均点 100

今後取り組むテーマ③「望ましい食生活を実践しよう」について（2）

評価指標		学校教育課			子育て支援課			保育課			国保健康課		
		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価		評価資料	自己評価	
			評価	得点		評価	得点		評価	得点		評価	得点
ストラクチャー	他機関との連携 社会資源の活用 ⇒連携・活用 しているか	食育推進について、食育推進ネットワーク会議で市立小・中学校と連携している他、小坪漁協など市内団体と連携して体験授業などを実施している。	4	100	・離乳食教室：社会福祉課と連携し、民生委員が1～2名参加者のサポートとして教室に参加。逗子市食生活改善推進団体と連携し調理を依頼。	3	75	市立保育園の他、横須賀・三浦・逗子・葉山地域の栄養士会（はなゆずの会）、小坪漁協などと連携を取り、食育を推進している。	4	100	・食生活改善推進団体若宮会（ヘルスマイト養成講座・男性の料理教室）、小坪漁業協同組合（魚のさばき方教室）、神奈川県栄養士会（一体的実施事業）などの団体と連携を図っている。 ・事業のインセンティブとして、地産（わかめ）の賞品の提供（小坪漁業協同組合）。	4	100
	事業遂行のための体制づくり ⇒庁内連携など工夫できたか	食育推進ネットワーク会議で各校の取り組みを共有している他、健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携・協力できる体制がある。	4	100	離乳食教室実施日の1週間前に人数や内訳を逗子市食生活推進団体と社会福祉課へ連絡。またその都度、食生活推進団体若宮会と連絡をとり意見を反映させたタイムスケジュールを修正し共有している。	3	75	健康増進・食育推進計画担当者会議にて庁内他課と連携できる体制がある。保育園での食育活動を知ってもらう機会として有用である。	4	100	健康増進・食育推進計画担当者会議にて、庁内他課と連携（チラシの配架や食育推進ネットワーク会議等への参加し情報共有など）・協力できた。	4	100
プロセス	データに基づく現状分析 ⇒現状を客観的に見ているか	市立小・中学校において年間の食育全体計画を定め、現状分析している。	4	100	R6年のアンケートの結果より「今後、離乳食教室に取り入れてほしい内容等がありましたら入力してください。」項目に試食という意見が数名あった。	4	100	市立保育園について、年間の食育計画を定めており、現状分析している。また、園児向けの食育体験について、保育士からフィードバックを受けている。	4	100	・食に関する講座において、アンケートの声に基づいた事業を実施した。 ・ニーズ調査（社会福祉課実施）にもとづき現状分析し、福祉部内で情報を共有を実施している。 ・KDB（国保データシステム）による低栄養等の分析を実施した。	4	100
	目標への手段 ⇒取組みを工夫 しているか	各校で食育に関する取り組みを企画し実施している。 保護者に対しては給食だより等で食育に関する情報を発信するほか、給食の試食会を通し、給食を通した食育の実践について説明している。	4	100	R6年のアンケートに基づき7年4月より試食再開した。	4	100	園児向けの食育体験について、保育士からのフィードバックなどから内容を検討。参加型でゲームを取り入れながら実施するなど取り組んでいる。	4	100	・食に関する講座をデータ分析をもとに、テーマ（防災・薬膳・栄養表示など）を検討し実施した。 ・食に関する情報発信として独自でチラシを作成し、健康講座や個別面談で活用した。 ・男性の料理教室では参加者に合わせたメニュー作成、調理工程の工夫をした。 ・若年層向けの講座（薬膳）を企画した。	4	100
アウトプット	テーマにおける情報発信 ⇒情報発信 しているか	年間およそ190回の給食を喫食することで、望ましい食事の量や内容について体験的に学ぶことができる。また、おたよりや保護者向けの試食会を実施している。中学校給食の献立内容はSNS（Instagram）で発信している。	4	100	乳幼児健診、広報ずしや逗子市公式YouTube、ホームページ、チラシで周知。	4	100	保護者向けに月1回『食育だより』を発行し、望ましい食生活などについて情報発信している。	4	100	情報発信の手段として、広報、広報板、ホームページ、チラシ配布、逗子市公式LINEを活用した。	4	100
	実施回数・参加人数・増減率など ⇒目標達成に向けてどうか	食育推進ネットワーク会議は年3回継続実施している。その内1回は、食育に係る授業等を実際に見学し、担当者間で振り返り等を行う。 食育授業などは、各学年の単元に沿って実施している。	4	100	（令和7年12月末現在） ・母乳・授乳相談（毎週木曜日）：98件 ・離乳食教室（隔月 初期・中～後期各1回ずつ）：計10回 122人 52組 ・子ども栄養相談（週1回）：73件 ・妊婦栄養相談：1件	3	75	・市立保育園で管理栄養士が行う食育講座を年8回継続実施している。現在2～5歳児向けだが、今後1歳児向けにもできたら良い。 ・園児向けの魚の解体ショー（食育目的） 湘南保育園9月10日 園児：73人、職員：20人 小坪保育園9月4日園児：63人、職員：23人	3	75	①食育講演会（11/5保健機能食品との付き合い方）：20人 ②栄養改善教室：魚のさばき方教室（6/9）31人・防災講座（9/17）17人・薬膳教室（11/21）26人・腸活教室（2/19）32人 ③男性の料理教室：16回（途中） 22人 *R7.12月末現在 ④ヘルスマイト養成講座：11回 5人	3	75
アウトカム	市民の反応・理解度 ⇒取組みの意図が伝わったか	小・中学校教諭より、「実体験する調理実習などは、児童生徒がより積極的になる」と反応があった。	4	100	アンケートより離乳食の進め方、タイミングの理解度は91.8% 進め方がわかった85.7%の結果。	4	100	食育体験や食育講座のフィードバックをもらう中で、園児の反応や理解度などを確認。体験や講座などをすると、園児の喫食率が上がる。	4	100	「理解・まあ理解できた」 ①20/20人（100%） ②魚のさばき方教室31/31人（100%） 防災講座17人/17人（100%） 薬膳教室26人/26人（100%） ③男性の料理教室22人/22人（100%）	4	100
	市民の実践可能性・波及効果 ⇒取組みの効果があったか	短期的には測りかねるが、児童生徒の意識に根付かせるように工夫している。	3	75	離乳食教室はR7年度から試食が再開。 アンケートより離乳食の進め方89.1%、タイミングがわかった81.9%試食は参考になった97%、出汁の味がわかった100%の結果。（5回実施） 実際の現場にて参加した保護者からは「簡単にできる」「これならできそう」と声があがっていた。	4	100	保護者向けの『食育だより』を家庭で園児と読んでいる様子が見られた。また、年少時から継続的に伝えている「3色食品群を食べよう」という内容を、年長時でしっかり覚えている様子が見られる。	4	100	・実習や試食を通して、知識や技術の習得、継続した実践への意欲も高かった。 ・活用できそうか「そう思う・まあそう思う」 ①食育講演会17人/20人（90%） ②魚のさばき方教室31/31人（100%） 防災講座17人/17人（100%） 薬膳教室26人/26人（100%） ③男性の料理教室22人/22人（100%） ・朝食を摂る習慣、主食・主菜・副菜を揃えた食習慣、減塩の知識を、参加者が周囲へも情報発信する姿勢が確認できた。	4	100